

平成21年度 学校自己評価及び関係者評価書

鈴鹿市立桜島小学校

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標・指数	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
学力保障	授業改革 授業研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全員公開授業を行った。(18名は2学期までに、16名は3学期に実施)</li> <li>5学年で算数のアンケートを実施し、分析を行った。算数に関して様々な観点からアンケートをとったので、即算数嫌いの割合はでない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】各学年で「授業で発表することは好きか嫌いか」とか「算数の授業が楽しいのはどんな時か」等、アンケート内容を考え、算数アンケートを実施した。同じ内容のアンケートでなかったため、全校の傾向を出すことはできなかったが、様々な視点から授業や教材、指導方法を見直すことができた。</li> <li>【課題】それぞれ学年のアンケート結果を分析し、授業改善につなげていくとともに、アンケートの項目内容を見直す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数に焦点を絞った研究体制は、外国籍の児童の多いことを考えると適切と考える。しかし、学力にかなりの差がある状況下、全体授業には限界があり、算数嫌いを解消する事は至難の技である。到達別学習や少人数指導体制を組み入れるなど、さらなる工夫が必要である。</li> <li>全員公開研究体制には、児童の自習態度の育成が不可欠である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態やねらいに応じた授業改善</li> <li>授業における発問の工夫</li> <li>意欲がわく教材作り</li> <li>新しい教材の作成</li> <li>統一したアンケートの作成</li> </ul>	
	少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業はよくわかるか」について1・2学期とも児童は89%以上保護者は92%以上が「わかる」と答えてきた。</li> <li>3学期の「学校一日開放デー」で3・5年8学級中4学級で公開(講師の都合で3学級実施できなかった)。また学校だよりやホームページ等で少人数教育の取組について保護者や地域に知らせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】少人数にすると一人ひとりの児童によりきめ細かな指導ができる。また少人数教育の取組について様々な方法や場で伝えてはいるが、保護者に十分伝わっていなかったことや、関心のない保護者もいることがアンケート結果からわかった。</li> <li>【課題】効果的な授業を展開するには、学習や活動内容によってTTや少人数、一斉授業というように授業形態を変えることや担任間の連絡調整をより効果的に行う方法、教材教具の開発をしていく必要がある。また保護者の家庭学習への協力や児童の学習意欲の向上や自己肯定感等につなげていくためにも、少人数教育の取り組みやそのよさやねらい等について今後も知らせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上に少人数指導は最も効果がある。対象学年を3年と5年に絞ったのは妥当と考える。特に基礎学力の定着のため、少人数指導を3年に重点を置いてはどうか。(3年は基礎学力の節目)</li> <li>一斉、取り出し等授業形態やTT・外国籍指導担当教員、支援学級担当教員、担任との連携等効果的な指導体制について研究していく必要がある。算数に限り、到達度別取り出し授業による少人数指導の効果的導入についても検討してはどうか。</li> <li>基礎学力の定着に向けた教具の有効な活用をおこなう。</li> <li>児童の意欲と保護者の理解を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域への発信</li> <li>授業公開</li> <li>取組の様子やねらい、成果を伝える</li> <li>教室や人材の確保</li> </ul>	
	学習ボランティア活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生や地域ボランティアに9名参加。ボランティアの活動の様子について学校だよりやホームページ、校内やふれあい会館に設置したパソコンを使って保護者や地域の方に知らせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】本年度は、既存ボランティア以外に環境ボランティアや学習支援ボランティア、見回りボランティアなど、新しいボランティアができ、より多くの方が学校教育に関わっていただいた。</li> <li>【課題】児童の安全や安全安心な学校環境作り、豊かな活動保障等のためにも地域に眠っている人材発掘が今後も必要である。そのために教育協議会や学校評議員会、PTAの各会議等で説明し、協力を得たり、学校だより、ホームページ、パソコン(電子紙芝居)を使っての情報発信をしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年への学習ボランティア導入は、少しでも教員のゆとりある指導を可能とする試みである。特に朝の始業時に各教室へ定期的に学習ボランティアが入り、児童の落ち着いた学習態度が定着しつつある。</li> <li>総合的な学習の時間における学習ボランティアの導入は安定し、それなりの成果を収めている。</li> <li>学校の積極的な地域に向けての働きかけにより、学習ボランティア(読み聞かせを含む)としてかなりの方が参画している。今後の更なる課題に向け、努力が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材の確保</li> <li>環境ボランティア(樹木の剪定・除草)</li> <li>見まもり・見まわり(バトール隊・低学年)</li> <li>学習支援ボランティア</li> <li>教職員とボランティアとの打ち合わせ時間の確保</li> </ul>	
	補充学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休業中に補習授業を行う。</li> <li>休み時間や放課後、さくらタイム等を使い補習学習を行う。</li> <li>家庭学習の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休業中に1学年以外は補習を実施した。</li> <li>休み時間や放課後を使って補習を実施した。</li> <li>家庭学習の重要性や取組について、学校だよりやホームページ等を使って保護者や地域に知らせた。また、10分×学年を目安に宿題をだした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】休んだ児童や宿題忘れ、学習内容が十分定着していない児童を対象に、休み時間や放課後等に補習を行った。また、全学年で家庭学習の目安を決め、毎日必ずする家庭学習の内容についても話し合うことができた。</li> <li>【課題】放課後の行事の精選や年間計画の作成、効果的な会議運営等、補習の時間確保に向けた具体的な取組が必要である。また、家庭学習についての共通認識や内容の精選、桜島小ならではの学習内容等、話し合いを行っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多忙な中、病気等で欠席し、学習が遅れている児童に補習学習を実施している学校の努力を評価したい。</li> <li>家庭学習の定着のため、保護者に対する手立てと共に課題の出し方がマンネリ化しないよう検討していく必要がある。</li> <li>新型インフルエンザの大流行に伴う学級閉鎖、学校閉鎖に対する対策を講じておく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補習</li> <li>参加率をあげる工夫</li> <li>時間の確保</li> <li>家庭学習</li> <li>保護者との連携</li> <li>量や内容の検討</li> </ul>
	キャリア教育 (さくら夢工房・職業体験学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>さくら夢工房や環境ワゴンなどを実施する。</li> <li>生活科や道徳、総合の時間を利用して職業体験を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さくら夢工房や環境ワゴン等の実施は、1学年が予定していたが学級閉鎖で未実施、他の学年は実施しなかった。</li> <li>職業体験はどの学年でも実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】ひとやものとのふれあいを大切に取り組めた。生活科や総合的な学習の時間、クラブの時間等に地域の方にきていただいたり、商店や施設、工場見学を行うことができた。</li> <li>【課題】キャリア教育についての共通認識が十分ではないので、研修会を持ったり実施に向けた年間計画が必要である。また、生活科や総合的な学習の時間に地域の方に来ていただいたり、校区内のお店や施設見学をしてきたが、体験に重点がいき、思いや願いを掘り起こすところには至っていない。ねらいや見学場所などの見直しをすることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科や総合学習の時間での職業体験は、働く事の大切さを体得する上で大きな意義がある。しかし、長時間が費やされ、他の分野にしわ寄せが行かないよう配慮すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいの明確化</li> <li>年間計画の作成</li> </ul>
外国籍児童に配慮した授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>JSLバンドスケールで個々の児童の日本語レベルを計る。</li> <li>日本語の習得状況に応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期ごとに児童の日本語レベルを測定した。その結果、レベル7に到達した児童8名、1学期よりレベルアップした児童47名、レベルを維持していた児童7名、レベルが下がった児童5名であった。全体的に前回よりもレベルアップした。</li> <li>机間指導の際、わからない語句や困ったことはないか尋ね、児童の理解度を確認しながら授業を行ってきた。エスペランサでの学習に関しては、面談で96%の児童が満足している結果となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題】学期ごとにJSLバンドスケールでの計測を行い、個々の児童についてしっかり話し合うことができた。また、授業の中では、その都度、声をかけ、児童の躓きや困っていることを聞きだしてきた。また、周りの児童が声をかけた時、手助けをしたりする姿もみられるようになった。</li> <li>【課題】授業内容を補助するような学級掲示や授業体制について考えていく必要がある。難しい言葉を理解するようになっていった言葉がけや指導方法を教師全員で環流し合う場の設定を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始前のあいさつで、母国語のあいさつも組み入れられ、外国籍の子どもの気持ちへの配慮がうかがわれる。取り出し授業へ出向く仲間へ励ましの言葉が送られている。授業成立の大前提である。仲間作りが進められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会</li> <li>JSLバンドスケール研修</li> <li>実践内容の交換</li> <li>授業</li> <li>視覚的教材の開発</li> <li>わかりやすい授業</li> </ul>	
(生徒指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童を減らす。</li> <li>安全教育を各学級で取り組む。</li> <li>年2回のいじめアンケート及び全教職員や児童の情報を基に、教職員の情報の共有と連携により、早期対応と心の教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童は7名。(昨年から引き続き不登校児童は2名、不登校気味児童は3名、本年転校児童2名)家庭訪問を実施したり、保護者と連絡をとったり関係機関と連携をとって改善に向け取り組んだ。</li> <li>いじめ撲滅に向け、情報の共有や連携を大切に取り組んできた。その結果、1学期に比べいじめを受けていると答えた児童数は減少した。また、いじめとして報告した事案は2件となった。</li> <li>昨年度より引き続きいじめを受けている児童調べも行い、次年度への申し送りとした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】不登校児童数やいじめの件数は減少していないが、関係機関との連携や校内体制は整えることができた。また共通理解や報告・連絡・相談体制もできた。</li> <li>【課題】専門機関との連携の在り方や校内体制の見直しを行う。また、いじめ撲滅に向け、「気になることは学校へ連絡」や「登下校中の児童の見守り」等、地域や家庭との連携を行い、未然防止に努めることが今後も必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童・いじめ問題・遅刻児童に対し、学校として前向きに取り組んでいるが、保護者はもちろん関係機関(医師を含む)との密接な連携が必要である。</li> <li>あいさつはかなり定着してきたが、基本的な生活習慣の徹底に向け、家庭との連携が必要である。</li> <li>朝読・読み聞かせが、学習規律の定着に効果がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携</li> <li>学校と家庭、地域、関係諸機関</li> <li>情報共有</li> <li>協力(桜島小学校区地域協議会)</li> <li>居場所作り</li> </ul>	
(人権教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権に関する授業公開を行う。</li> <li>児童を認め、褒める活動を推進し、学校生活が楽しいと感じる児童やよさを感じる児童とともに80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白子中学校区の公開授業で3学年が発表。保護者への授業公開については、10学級実施した。</li> <li>アンケートの結果、学校が楽しいと感じている児童94%、保護者98%という結果になった。「自分にはよいところがあるか」は80%となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】白子中学校区発表に向け、桜島小学校の人権について話し合いを行うことができた。</li> <li>【課題】できて当たり前ではなく、できたことをほめることを実施したが、自己肯定感を高めるまでにはいたらなかった。学校だよりで家庭の協力を求めた。「よさ」について児童と話し合ったり、友達の良いところ見つけをしたりと具体的な活動について、家庭と協力しながら、考えていく必要がある。また、相手の気持ちを考えない言動もみられる。自己肯定感を高める取り組みとともに人権についても児童とともに話し合いを続けていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国籍の児童や支援学級の児童は、学級の仲間として、特別扱いでなく自然体で迎え入れられている。しかし、いじめなどの問題はいつ起こるか分らず、人権教育は重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権意識を高める</li> <li>ふれあう場の見直しと設定</li> <li>家庭、地域への発信</li> <li>道徳授業の充実</li> <li>自己肯定感を高める取組の継続</li> </ul>	
(開かれた学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期と2学期に児童と保護者へのアンケートを取り、それぞれのニーズをつかみ、教育活動に生かす。</li> <li>学校だよりを月2回以上発行するとともに地域回覧等を使って、学校の取組を地域にも発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2学期共にアンケート実施。意見、質問に対しては保護者懇談会や学校だより、ホームページ等を使って伝えてきた。アンケート内容については学校評価委員会で検討を行った。</li> <li>学校だよりは1週間に1回発行し、学校の取組や児童の様子等を知らせた。また、地域回覧やホームページ掲載も実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】アンケートを続けてきた結果、登校前の児童の様子を観察したり、ちょっとした変化を学校に連絡したりする家庭が増えてきた。また学校の取り組みを評価し、感謝の気持ちを記述する家庭も増えてきた。</li> <li>【課題】アンケート内容の見直しや実施時期、方法について今後も考えていきたい。また、今後もアンケートを通して学校の取組、大切にしていることを保護者に伝え、家庭・地域と協力して取り組んでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校開放デーの設定や地域に向けての学校だより「さくらじま」の回覧・インターネットでの学校紹介・ボランティアの導入等、開かれた学校づくりが進められていることは評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート</li> <li>内容、実施時期</li> <li>地域とのつながり</li> <li>一日開放、授業公開、行事等の見直し</li> </ul>	